

0 理念

進捗状況報告

○マルチメディア関連科目の増強

2004年度には「コンピュータ実践（マルチメディア）」7コマを開講していたが、2005年には同科目8コマに加え、マルチメディアよりの「コンピュータ実践」科目として、「画像処理」、「映像処理」、「情報デザイン」の3科目を各3コマずつ新たに開講した。2006年度および2007年度には「マルチメディア」8コマに加え、「画像処理」5コマと、「映像処理」2コマ、「情報デザイン」2コマを継続して開講した。

○履修申し込み状況等の、開講科目数への反映

基礎科目の「コンピュータ基礎」については、2004年度16コマ、2005年度15コマ、2006年度16コマ、2001年度14コマを開講している。これに対し、毎年の人気科目である「コンピュータ実践（ホームページ）」については2004年度から8コマ、9コマ、10コマ、10コマと開講数を増やし、同じく「コンピュータ実践（プレゼンテーション）」については、2004年度から10コマ、9コマ、10コマ、12コマと開講数を増やしている。

○履修申し込み形態の改善

2004年度、2005年度、2006年度については、ひとりにつき、基礎科目、実践科目、言語科目の3カテゴリーから1科目ずつの履修しかできなかったが、2007年度には実践科目の中にグループ分けを導入し、最大5科目までを履修できるという運用を実現した。

○高校課程の変更への対応

高校での情報リテラシー教育の必修化にともない、学生の出身高校での履修実情に応じた教育内容の対応を行っている。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○教員数の増加

上記「改善の具体的方策」について、非常勤講師の採用を増やす形で授業数の増加に対応した。

2005年度（開講数74、非常勤講師15）、2006年度（開講数77、非常勤講師17）、2007年度（開講数91、非常勤講師17）

学内第三者評価

マルチメディア関連科目を増強し、「コンピュータ実践」の2科目についても開講数を増やしてきたほか、履修申し込みもより柔軟な仕組みを構築して学生の利便性を高めてきていることは評価できる。

また、全学生数あるいは希望学生数に対する実際の履修者数のデータがないが、希望者数と履修者数の乖離については2005年度の自己評価においても記述されており、どのように改善が進んでいるのか数量的なデータに基づいた記述が求められる。